

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 2	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	スポーツ・健康科学研究科の教育研究組織は、1 研究科 1 専攻の構成になっている。専攻はスポーツ関連分野と健康関連分野からなり、さらにスポーツ関連分野はスポーツ科学領域と応用スポーツ科学領域からなり、健康関連分野は健康科学領域と健康情報科学領域からなる。 研究科の教育研究上の目的は、「スポーツ・健康科学研究科修士課程は、スポーツ分野と健康分野を配置し、スポーツや身体活動および健康や医療に関する分野横断的、学際的な教育研究を行うことで、幅広い視野と高度な知識・技能をもった専修免許を有する教員、各領域の専門的指導者および職業人を輩出することを目的とする。」となっている。このように 2 分野・4 領域体制、それぞれの特有の教育研究を学修し横断的な幅広い視野を持つ人材の育成が可能となる。したがって、現在の教育研究組織の構成は理念・目的に照らして適切である。(平成 29 年度に 4 領域から 2 分野へ移行、平成 28 年 3 月 24 日理事会承認)
2-2	設置後 8 年が経過したが、これまで教育研究組織の適切性について定期的な検証は行われてこなかったため今後責任主体・組織、権限、手続きについて、研究科委員長及び専攻主任を中心とした教育研究組織の責任主体を教務委員会と自己点検評価委員会として検証プロセスを検討する。

【効果が上がっている事項】

2-1	
2-2	

【改善すべき事項】

2-1	教育研究組織が学問の動向や社会的要請に対応したものであるか、2 分野・4 領域体制の適切性について検証する必要がある。
2-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B2-3	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 《既出》B1-16
B2-4	「大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023」 《既出》B1-1
〔追加資料〕	

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	2-1 カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会と合同で 2 分野・4 領域体制の適切性について検証する。	検討結果が研究科委員会議事録に記載される。	→			S		
	2-2 教育研究組織の責任主体を教務委員会と自己点検評価委員会として検証プロセスを検討する。さらに教育研究組織が学問の動向や社会的要請に対応したものであるか検討し、必要に応じ	検討結果が研究科委員会議事録に記載される。	→			A		

研究科

	て改革を実施する。				
14 年度 目標	2-1 カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会と合同で2分野・4領域体制の適切性について検証する。 2-2 教育研究組織の責任主体・組織、権限、手続きを明確にする検証プロセスについては、カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会と合同で検討する。	検証プロセスについては、検討結果が研究科委員会議事録に記載される。	→ B		
15 年度 目標	2-1 カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会と合同で2分野・4領域体制の適切性について検証し、4領域を2分野に移行する。 2-1 カリキュラム改革実施に伴う補充教員を資格審査するため、選考委員会を設置する。また来年度の担当科目の履修状況を調査する。	検証プロセスについては、検証結果が研究科委員会議事録に記載される。	A		
	2-2 教育研究組織の責任主体・組織、権限、手続きを明確にする検証プロセスとしてカリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会から委員を選任し、教育研究組織が学問の動向や社会的要請に対応したものであるか検討し、新カリキュラムに反映させ研究科委員会で承認を得る。	検証プロセスについては、検討結果が研究科委員会議事録に記載される。	A		
16 年度 目標	2-1 2017 年度から実施する2分野体制について、カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会と合同で適切性について定期的に検証する。	検証プロセスについては、検証結果が研究科委員会議事録に記載される。	A		
	2-2 カリキュラム改革ワーキンググループ及び自己点検評価委員会から選任された委員によって教育研究組織が学問の動向や社会的要請に対応したものであるか定期的に検証する。	教育研究組織の責任主体を教務委員会と自己点検評価委員会とし、検証プロセスを検討結果が研究科委員会議事録に記載される。	A		